

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	総合リハビリテーション学		
担当教員	滝川 忠喜		
学年	2年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	30時間
授業の概要	臨床所見を学び、的確な判断に結びつける。		
学習目標	画像診断、CT読影、臨床症状を組み合わせる理解できるようにする。		
授業計画	1. 胸部単純撮影 2. 胸部単純撮影 3. 頭部CT 4. 頭部CT 5. 頭部CT 6. MRI 7. MRI 8. MRI 9. 心電図 10. 心電図 11. 四肢のX線 12. 四肢のX線 13. 四肢のX線 14. 病理まとめ 15. 病理まとめ		
教科書	使用しない		
参考書	適時紹介する		
評価方法	国家試験形式による筆記試験を実施。		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	整形外科科学		
担当教員	江草 俊樹		
学年	2年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	本授業では、運動器の構造と機能、整形外科領域における代表的な疾患や外傷について概論的に学習します。疾病の原因、病態、診断、治療、リハビリテーションの概要を体系的に理解し、運動機能の回復を支援する専門職としての基礎知識を習得します。人体の複雑な運動器を理解することで、リハビリテーションの計画立案に役立つ視点を養います。		
学習目標	臨床で多くみられる疾患を中心に、整形外科疾患の発生機序・診断・治療の基礎的な知識を理解する。また、運動器の理学療法の基盤となるようにそれぞれの疾患の知識を定着させる。		
授業計画	16. 股関節疾患① 17. 股関節疾患② 18. 股関節疾患③ 19. 膝関節疾患① 20. 膝関節疾患② 21. 膝関節疾患③ 22. 足関節疾患① 23. 足関節疾患② 24. 頸椎疾患① 25. 頸椎疾患② 26. 胸腰椎疾患① 27. 胸腰椎疾患② 28. 関節リウマチ 29. 末梢神経障害(下肢)、熱傷 30. 骨腫瘍・軟部腫瘍・骨端症		
教科書	『標準整形外科科学』【編】中村利孝（医学書院）		
参考書	『ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション』【監】神野哲 他（羊土社）		
評価方法	試験・出席状況・授業態度		
備考	範囲が広いため、予習・復習を行ってください。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	神経内科学		
担当教員	佐近 隆二		
学年	2年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	中枢神経障害や末梢神経・筋疾患を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と薬理を含む治療を学ぶ。脳血管疾患や感染・炎症疾患、神経変性疾患、神経筋接合部疾患などの疫学、予後、病因、評価、検査などについて学習する。		
学習目標	臨床で遭遇する神経疾患の原因・病態生理・神経症候・検査について学ぶ。 脳神経の構造・機能を基礎として、疾患・障害の理解することを目標とします。		
授業計画	16. 脱髄性・非感染性炎症性疾患 17. 脱髄性・非感染性炎症性疾患 18. 運動ニューロン疾患 19. パーキンソン病 20. パーキンソン病 21. 脊髄小脳変性症 22. 脊髄小脳変性症 23. 筋肉疾患 24. 筋肉疾患 25. 筋炎 26. 筋炎 27. 重症筋無力症 28. 重症筋無力症 29. 末梢神経疾患 30. 末梢神経疾患		
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学』【著】川平 和美（医学書院）		
参考書	『理学療法テキスト神経障害理学療法学II(15レクチャーシリーズ)』【編】石川朗（中山書店） 『系統理学療法学 神経障害系理学療法学』【著】丸山仁司（医歯薬出版）		
評価方法	授業態度、課題への取り組み、出席状況、期末試験などを含め、総合的に評価する。		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	臨床内科学		
担当教員	藤井 昌江		
学年	2年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	30時間
授業の概要	本授業では、臨床内科学の基礎的知識を概論的に学びます。主要な内科疾患の原因、症状、診断、治療の基本的な考え方を体系的に整理し、臨床現場で求められる理解の基盤を養います。症例を交えた講義を通じて、患者の全体像を捉える力や問題解決の視点を培い、専門職として必要な臨床的思考力の育成を目指します。		
学習目標	病気の病因・経過・転帰について学ぶ		
授業計画	1. 第3章 症候学① 2. 症候学② 3. 第4章 循環器疾患① 4. 循環器疾患② 5. 第5章 呼吸器疾患① 6. 呼吸器疾患② 7. 第6章 消化器系の疾患① 8. 消化器系の疾患② 9. 第7章 肝胆膵疾患① 10. 肝胆膵疾患② 11. 第8章 血液・造血器疾患 12. 第9章 代謝性疾患 13. 第10章 内分泌系の疾患 14. 第11章 腎・泌尿器疾患 15. 第12章 アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全		
教科書	『PTOT標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』 【監】奈良勲 他（医学書院）		
参考書	『系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進1』【著】大橋健一（医学書院） 『PTOT基礎から学ぶ内科学ノート』【編】中島雅美 他（医歯薬出版） 『なるほどなっとく！病理学: 病態形成の基本的な仕組み』【著】小林正伸		
評価方法	期末試験		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	作業療法評価学Ⅰ		
担当教員	片山 利久		
学年	2年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	120(60)時間
授業の概要	実技を通して、評価に必要な知識・技術の習得を行う		
学習目標	前期に引き続き、作業療法に必要な評価の目的・方法を学び、理解することを目標とする。		
授業計画	31. MMT 筋力とは、MMTとは 32. MMT 肩関節 1 33. MMT 肩関節 2 34. MMT 肩関節 3 35. MMT 肘関節・前腕 36. MMT 手関節 37. MMT まとめ 38. 実技試験 39. MMT 指 40. MMT 指 41. MMT 母指 42. MMT 肩甲帯 1 43. MMT 肩甲帯 2 44. MMT 股関節 1 45. MMT まとめ 46. 実技試験 47. MMT 股関節 2 48. MMT 膝関節・足部 49. MMT 頭頸部 50. MMT 頭頸部 51. MMT 体幹 52. MMT 体幹 53. MMT まとめ 54. 実技試験 55. 評価学まとめ 56. 評価学まとめ 57. 評価学まとめ 58. 評価学まとめ 59. 評価学まとめ 60. 評価学まとめ		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学』【監】能登 真一 他（医学書院） 『ベットサイドの神経の診かた』【著】田崎義昭・斎藤佳雄（南山堂） 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢』【著】林典雄（メジカルビュー） 『新・徒手筋力検査法』【著】Helen J. Hislop（メジカルビュー） 『PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学』 【編】潮見泰藏・下田信明（羊土社）		
参考書	随時紹介		
評価方法	出席状況、授業態度、実技試験および筆記試験		
備考	メジャー・打腱器・角度形(ゴニオメーター)		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	身体障害作業療法学Ⅰ(運動器)		
担当教員	江草 俊樹		
学年	2年	学科	作業
単位数	5単位	時間数	120(30)時間
授業の概要	本授業では、運動器に障害を持つ人々に対する作業療法の基礎を学びます。代表的な運動器疾患や外傷を対象に、病態や機能障害を理解し、生活行為の視点から評価と治療のプロセスを概説します。学生は、作業療法が単なる機能訓練ではなく、対象者の「したい」「できる」を支援する専門職であることを学び、その実践に必要な知識と技能の基盤を築きます。		
学習目標	運動器疾患を治療するにあたり、骨・関節・筋の知識は必須である。各疾患の評価および治療を学ぶことで、臨床実習を円滑に行えるだけの知識を獲得する。運動器障害を持つ対象者への作業療法についての知識・技術を習得する。		
授業計画	16. オリエンテーション、関節リウマチの作業療法① 17. 関節リウマチの作業療法② 18. 関節リウマチの作業療法③ 19. 関節リウマチの作業療法④ 20. 頸髄損傷の作業療法① 21. 頸髄損傷の作業療法② 22. 頸髄損傷の作業療法③ 23. 頸髄損傷の作業療法④ 24. 椎体圧迫骨折の作業療法① 25. 椎体圧迫骨折の作業療法② 26. 大腿骨頸部骨折の作業療法① 27. 大腿骨頸部骨折の作業療法② 28. 切断と離断の作業療法① 29. 熱傷の作業療法① 30. まとめ 国家試験対策		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法』【編】岩崎テル子 (医学書院) 『ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション』【監】神野哲 他 (羊土社)		
参考書	『標準整形外科学』【編】中村利孝 (医学書院)		
評価方法	出席状況、授業態度、試験		
備考	整形外科で学ぶ内容を基に授業を進めるため、復習をしておくようにしてください。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	身体障害作業療法学 I (脳血管)		
担当教員	佐近 隆二		
学年	2年	学科	作業
単位数	5単位	時間数	120(30)時間
授業の概要	本授業では、脳血管障害によって生じる身体機能・高次脳機能の障害に対する作業療法の基礎を学びます。代表的な脳血管疾患の病態、症状、および生活への影響を理解するとともに、日常生活活動(ADL)や社会生活への参加を促すための評価・治療の基本的な考え方を概説します。学生は、脳血管障害の対象者へのかかわり方について、作業療法の視点から考える基盤を築きます。		
学習目標	各疾患の評価および治療を学ぶことで、臨床実習を円滑に行えるだけの知識を獲得します。 脳血管疾患の症状・障害の理解を基に、評価・検査の理解ができることを目標とします。 中枢神経障害を持つ対象者への作業療法についての知識・技術を習得する。		
授業計画	16. 失行 17. 失行 18. 失認 19. 失認 20. 半側空間無視 21. 半側空間無視 22. 遂行機能障害 23. 遂行機能障害 24. 社会的行動障害 25. 社会的行動障害 26. 脳血管障害に対する治療 27. 脳血管障害に対する治療 28. 脳血管障害に対する治療 29. 脳血管障害に対する治療 30. 脳血管障害に対する治療		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法』【編】岩崎テル子 (医学書院) 『標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学』【著】能登真一 (医学書院) 『ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション』【監】神野哲 他 (羊土社)		
参考書	随時		
評価方法	課題・期末試験・課題学習・グループワーク・出席状況による総合評価		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	発達障害作業療法		
担当教員	中野 和代		
学年	2年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	120(60)時間
授業の概要	1. 正常発達の理解を基礎として、胎児期あるいは出産時、発達期の問題により、障害を受けた子どもの評価と作業療法の概要について学ぶ。 ① 脳性麻痺のタイプ別の特徴と作業療法について ② 小児の整形外科疾患、遺伝子疾患を伴う疾患と作業療法の概要について 3. 障害を持つ子どもの作業療法評価と作業療法(療育)について		
学習目標	定型発達と同様に、発達過程で障害が生じた子どもの場合も、ひとりひとりに異なった発達プロセスがある。その子の発達段階に応じた目標設定を行い、作業療法を実践できるようになることを目指す。		
授業計画	31. オリエンテーションと前期復習 32. 遊びと発達 33. 自閉症スペクトラム障害(1) 34. 自閉症スペクトラム障害(2) 35. 自閉症スペクトラム障害(3) 36. 自閉症スペクトラム障害(4) 37. 自閉症スペクトラム障害(5) 38. 自閉症スペクトラム障害(6) 39. 知的障害(1) 40. 知的障害(2) 41. 発達検査・知能検査 42. 国家試験対策① 43. 脳性麻痺総論(1) 44. 脳性麻痺総論(2) 45. 痙直型四肢麻痺(1) 46. 痙直型四肢麻痺(2) 47. 痙直型両麻痺(1) 48. 痙直型両麻痺(2) 49. 痙直型片麻痺 50. アテトーゼ型脳性麻痺(1) 51. アテトーゼ型脳性麻痺(2) 52. 国家試験対策② 53. デュシェンヌ型筋ジストロフィー(1) 54. デュシェンヌ型筋ジストロフィー(2) 55. その他の筋ジストロフィー 56. 二分脊椎(1) 57. 摂食嚥下障害(1) 58. 摂食嚥下障害(2) 59. 社会問題 60. 国家試験対策③		
教科書	『作業療法学ゴールドマスター・テキスト7 発達障害作業療法学』【著】神作一実(メジカルビュー) 『写真で見る 乳児の運動発達 生後10日から12ヶ月まで』【著】Lois Bly(協同医書出版) 『シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト』【著】田原弘幸、大城昌平(南江堂)		
参考書	『発達障害領域の作業療法』(中央法規) 『脳性麻痺と機能訓練—運動障害の本質と訓練の実際』(南江堂) 『発達OTが考える子どものセラピーの思考プロセス』((Medical view) 『理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習2 運動発達と反射 反射検査の手技と評価』 【著】Marylou R.Barnes, Carolyn A.Crutchfield, Carolyn B.Heriza (医歯薬出版) 『標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学』【編】岩崎テル子(医学書院) 『標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学』【著】能登真一(医学書院) 『ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学』【著】長崎重信(メジカルビュー)		
評価方法	出席状況・授業への取り組み・期末試験によって総合的に評価する。		
備考	・各自で復習を計画的に進めながら学ぼう。 ・正常発達と照らし合わせながら、発達障害について理解を深め、障害のイメージをつかもう。 ・必要に応じて授業内容を変更する場合があります。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	精神障害作業療法Ⅰ		
担当教員	沖辺 裕樹		
学年	2年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	本授業では、精神障害作業療法学の基礎を概論的に学びます。精神疾患の特徴や症状の理解を深めるとともに、作業療法の意義や役割を体系的に整理します。さらに、治療的作業活動の基本的な考え方や支援の視点を学び、患者の生活機能や社会参加を促進するための基盤的知識を身につけます。臨床実践へとつながる土台を養うことを目的とします。		
学習目標	精神障害作業療法の基盤となる理論について理解する。 精神障害作業療法における対象者の全体像を把握するために必要となる評価手段および評価のまとめについて理解する。		
授業計画	16. 評価の流れ 17. 評価手段①情報収集 18. 評価手段②記録法・個人情報 19. 評価手段③面接法・集団評価 20. 評価手段④検査法 21. 評価手段⑤検査法 22. 評価手段⑥検査法 23. 評価手段⑦検査法 24. 評価手段⑧検査法 25. 評価手段⑨検査法 26. 評価手段⑩検査法 27. 評価演習① 28. 評価演習② 29. 評価演習③ 30. 評価演習④		
教科書	『はじめての精神科作業療法』【著】山口芳文・渡辺雅幸（中外医学社）		
参考書			
評価方法	期末試験		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	義肢・装具学		
担当教員	久保田 源		
学年	2年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	本授業では、義肢装具学の基礎を概論的に学びます。義肢や装具の種類や構造、適応となる疾患や障害の特徴、基本的な製作・装着の原理について理解を深めます。さらに、リハビリテーションにおける義肢装具の役割や意義を学ぶことで、患者の生活機能の改善や社会参加を支援する視点を養い、専門職として必要な基盤知識を習得することを目的とします。		
学習目標	上肢装具(カックアップスプリント・短対立装具)の採寸・型紙作製からモールディング・適合までを行い、装具の特性と目的的理解を深める。		
授業計画	16. カックアップスプリント・短対立装具 採寸・型紙作製 17. カックアップスプリント・短対立装具 採寸・型紙作製 18. 短対立装具 プラ板裁断・モールディング 19. 短対立装具 モールディング・トリミング 20. 短対立装具 モールディング・トリミング 21. 短対立装具 仕上げ 22. 短対立装具 仕上げ 23. カックアップスプリント プラ板裁断・モールディング 24. カックアップスプリント モールディング・トリミング 25. カックアップスプリント モールディング・トリミング 26. カックアップスプリント 仕上げ 27. カックアップスプリント 仕上げ 28. 学生評価 29. 講師評価 30. (テスト)		
教科書	使用しない		
参考書			
評価方法	作成物の適合評価等 ・ 口頭試問		
備考	講義では、肘が出る上着を用意してください。 製作実習なので、汚れてもいい服装で参加してください。 刃物を使いますので、安全に注意しましょう。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	臨床評価実習(OSCE)		
担当教員	熊野 巴之・滝川 忠喜		
学年	2年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	OSCEを通じて作業療法に必要な臨床評価技術を演習し、知識・技能・態度を統合して実践力を養う。		
学習目標	目標:臨床評価実習が円滑に行うことできる。 概要:臨床実習前教育学の復習を行う。		
授業計画	16. 症例 実技① 17. 症例 実技② 18. 症例 実技③ 19. 症例 実技④ 20. 症例 実技⑤ 21. 症例 実技⑥ 22. 症例 実技⑦ 23. 症例 実技⑧ 24. 症例 実技⑨ 25. 症例 実技⑩ 26. 症例 実技⑪ 27. 症例 実技⑫ 28. 症例 実技⑬ 29. 症例 実技⑭ 30. まとめ		
教科書	臨床実習前教育学で配布されたプリント		
参考書	随時		
評価方法	実技試験を実施。適切な評価方法、評価の円滑さ、コミュニケーション能力、安全性が考慮出来ているかが必須となる。		
備考	実習に向けての身だしなみ、服装、評価器具		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	臨床体験実習Ⅱ（実習）		
担当教員	臨床実習指導者 教員		
学年	2年	学科	作業
単位数	1単位	時間数	45時間
授業の概要	本授業では、専門職としての知識・技術を統合し、実際の臨床現場で活用するための第一歩として、病院・施設における実習を行います。実習施設でのオリエンテーションや、指導者からの助言を通じて、作業療法士の仕事内容や役割を肌で感じます。この実習を通じて、これまでに学んだ知識と技能がどのように臨床に活かされるかを体験的に理解し、今後の学習の方向性を明確にします。		
学習目標	①臨床現場における作業療法の現場を経験することにより、3年次開講の臨床評価実習を円滑に導入できるようにする。 ②作業療法士が行う様々な分野の業務の実際を理解し、チーム医療の重要性を考えることができる。 ③障がいを持つ人を全人間的に受け止めるとはどのようなことであるかを考えることができる。 ④対象者への接し方の基本を身につける。 ⑤対象者に対する検査・測定の一部を行えるようになる。		
授業計画	1. オリエンテーション 実習地発表、関連書類の説明、レポート課題提示、実習生自己紹介用紙の作成等 2. 実習期間 令和8年2月9日（月） ～ 令和8年2月28日（土） ※上記の期間内5日間（9時間×5日間＝45時間） ※適宜、訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションに関する実習を1単位以上 3. 報告会 実習終了後に予定		
教科書	必要に応じて資料配布		
参考書	実習指導者、教員等に必要な参考書籍、参考文献を確認すること。		
評価方法	座学の出席状況、臨床体験実習出席状況、臨床実習指導者の評価、報告会発表態度・内容等を考慮し、学外・学内総合評価する。		
備考	成績処理は3年次前期の判定となります。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	作業療法国家試験演習 I		
担当教員	滝川 忠喜		
学年	2年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	120(60)時間
授業の概要	国家試験受験のための基礎的知識の学習。		
学習目標	作業療法に必要な知識学び、理解することを目標とする。		
授業計画	31. 神経系 46. 発達 32. 神経系 47. 発達 33. 神経系 48. 発達 34. 神経系 49. 整形 35. 神経系 50. 整形 36. 神経系 51. 整形 37. 神経系 52. 整形 38. 神経系 53. 整形 39. 神経系 54. 神経心理 40. 神経系 55. 神経心理 41. 神経系 56. 神経心理 42. 老年期 57. 神経心理 43. 老年期 58. 神経心理 44. 老年期 59. まとめ 45. 老年期 60. まとめ		
教科書			
参考書	適宜紹介		
評価方法	出席状況、授業態度、試験		
備考			